



# 森林レストルーム

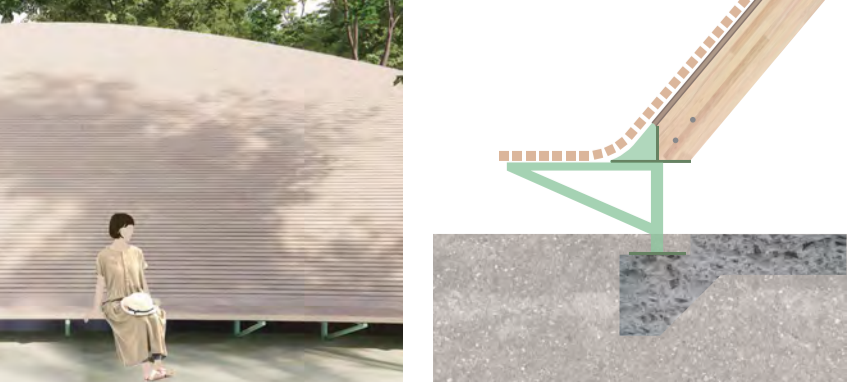
## 人の手と森林が溶け合う風景

公園の木々の中へ分け入ると、至る所に切り株を見つけることができます。野生的に大きく成長する木々の中にあって、綺麗な断面を持つ切り株からは、人の手が増えられて生きる「自然との共生」を実感できます。谷戸に代表される横浜の原風景とも呼べるものです。大らかな曲面によって森林に溶け込む風景をつくります。



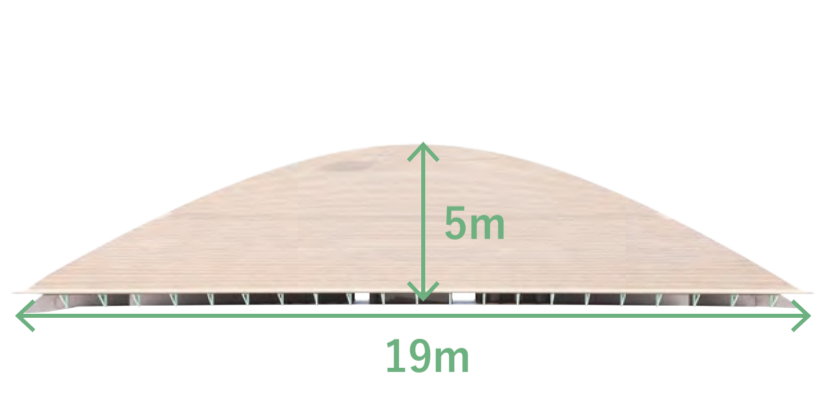
## 公園の拠点としてのファニチャー

ジョギングをしている人、はらっぱを駆ける子供たち、新聞を読んでいる人。公園で過ごすさまざまな人々が腰掛けられる、大きなベンチをつくります。トイレという機能を超えて、運動の身支度をしたり、木々を眺めながら休憩したり、この場所で始まり、この場所で終わる、公園の新しい拠点としてのファニチャーをつくります。



## 伸びやかなランドスケープ

公園の中でも特に見晴らしの良い場所に位置しています。横方向への原っぱの広がり、太い幹に高さのある木々、根岸森林公園全体が持つ大らかなスケールに呼応するような、伸びやかな佇まいを目指します。弧を描く大きな曲面、緩やかな登り勾配。周囲の起伏のある地形と連続した高さ5m/幅19mの伸びやかなランドスケープとなります。



## 居場所のグラデーション

トイレ機能を「トイレブース」と「中間領域(手洗スペースや動線など)」の2つへ明確に分けることで、レストスペース(ロングベンチ)との物理的・心理的距離を確保します。中間領域は、風が抜け、光が差し込む明るい場所としました。暗く湿った場所ではなく、明るく風通しの良いみんなが集えるトイレを目指します。

